

### 3-2-2 年取り行事

飛騨では今でも大晦日に盛大な祝いをする。それは、年をとる祝いであり、帰省した兄弟や子息を加えて、家族水いらずで、厳かにとり行なう神聖な儀式である。皆、順に風呂へ入り、仏壇にまいり、それから一同席について今年の事を感謝し、また来年も良き年であらん事を祈る。

この行事の膳には、必ずブリが乗る。十二月中頃から氷見港に回遊してくる油の乗り切ったおいしいブリが、飛騨へ入ってくる。ブリは小さい頃にハマチ、フクラギといい、大きくなるごとに名前が変わってゆくという、出世縁起を託して食べた。ブリが買えない年には煮イカで代用し、子どもも大人と同じようにブリや煮イカを膳に乗せてもらった。

正月の朝は、ゾウニを食べるぐらいで、ごちそうを食べなかった。この年取り行事は全国的にまだまだ残っている。一日の始りは夜から始まるという日本古来の民俗や、正月三カ日の儒教の影響による若水迎え、雨戸を開けるのは家長が、とかの慣習を含んだ年中行事として、飛騨の「年取り」は特筆すべきものである。